



[今月の聖書]

エリヤは彼女に言った、「子をわたしによこしなさい」。そして彼女のふところから子供を取り、自分のいる屋上のへやへかかえて上り、自分の寝台に寝かせ、主に呼ばわって言った、「わが神、主よ、あなたはわたしが宿っている家のやもめにさえ災をくだして、子供を殺されるのですか」。そして三度その子供の上に身を伸ばし、主に呼ばわって言った、「わが神、主よ、この子供の魂をもとに帰らせてください」。主はエリヤの声を聞き入れられたので、その子供の魂はもとに帰って、彼は生きかえった。(列王上 17:19-22)

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。そういう人は、主から何かをいただけるもののように思うべきではない。そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない。」(ヤコブ 1:5-8)

「あなたがたの中に、苦しんでいる者があるか。その人は、祈るがよい。喜んでいる者があるか。その人は、さんびするがよい。あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。」(ヤコブ 5:13-18)

お元気でお過ごしでしょうか。新年の標語は『超越信仰』です。神様は私たちの考えや発想を遥かに越えたみ業をなしてくださいませ。疑わないで、聖書のみことば通り信じて、むしろ感謝し賛美しましょう。今月は預言者エリヤを取り上げました。彼こそ超越ライフを生きた人です。エリヤはBC9世紀、イスラエルのアハブ王、アハズヤ王の時代に生きた預言者でした。偶像礼拝に陥ったアハブ王に神の裁きを宣告しました。偉大な預言者でしたが必ずしも強い信仰を持っていた訳ではありません。ケリテ川の畔で6ヶ月間、神と向き合う必要がありました。ザレパテの貧しいやもめの家で3年間庶民の苦悩を見る必要がありました。(列王上 17章)そしてカルメル山上でバアル教の預言者たちと対決しました。(18章)第1に神を知り、第2に人を知り、初めて主のために用いられるのです。この旧約聖書の預言者エリヤについて新約聖書に30回以上引用されています。今日のテキスト、ヤコブの手紙5章では力ある祈りの人として語られています。「私たちと同じ人間であったが」、彼の祈りは自然界すらも動かしました。『超越信仰』とは祈りの奇跡をも意味しているのです。祈りの力は神のみことばの実感を握るまで祈り抜く体験にかかっています。共に今年祈りの力を体験する恵みを頂きたいものです。神の祝福をお祈り致します。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

2月13日(火) 13:00 CFI 横浜集会 (福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

2月20日(火) 13:00 CFI 千葉集会 (京葉銀行文化プラザ7F TEL 043-202-0800)

2月21日(水) 11:00 CFI 賛美の集い (自由が丘チャペルセンター)、14:00 ジョイコーラス

*なお、千葉集会は会場の京葉銀行が売却されたため3月までの使用となり、その後については年三回位の地区集会となります。今後のためにお祈りください。

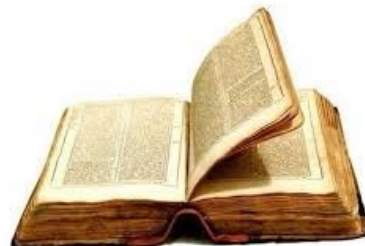
* 2月15日(木) 11:00 バイブルアカデミー (自由が丘本部事務所、要登録、受講料1回3,000円)

* 2月11日(日) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

「わが人生を語る」

小川 鐵雄（神奈川県）

キリスト教に関心のあった私は西南学院大学を受験して入学しました。大学では毎日ランキン・チャペルで礼拝の時間がありました。1年2年で、キリスト教概論、3年4年でキリスト教を学びました。特にキリスト教概論でキリスト教の歴史を学びましたが、多くのクリスチャンが弾圧を受け殺害されたことも学びました。それでもクリスチャン達は信仰を守り続けた事を知りました。



在学中に米軍の空軍基地アルバイトをしました。一人のクリスチャンの空軍士官に連れられて基地チャペルの水曜日祈祷会に行きました。私はバプテストの大学で学んでいることを話したことがあります。同じバプテストの空軍の士官が帰国する時に、彼が一番大切にしていた皮表紙で、カラー写真入りで、コンコルド付きの大型の英語の聖書を私にプレゼントして帰国しました。しかし、あと一年で卒業という時、肺炎になり、保健所へ行きました。医者から結核に感染していることを知らされましたが、死の宣告を受けた思いでした。当時結核は死の病と言われていました。私は死の恐怖に襲われ、暗黒のどん底に落とされたようでした。夜寝ることも出来ず、食事も取ることが出来ず、イエス様助けて下さいと祈りました。誰にも知らせずに、大学へ休学届を提出して、国立病院へ入院しました。両親に大変な心配と経済的な負担をかけました。その年のクリスマスにロイス・グラス先生がバイブル・クラスのメンバーを連れて、私の病室に突然現れて、クリスマス・キャロルを歌ってくれました。イエス様の憐れみにより病は癒されて大学へ復学しました。卒業前のクリスマスに自分の罪を悔いあらため、イエス様を自分の救い主と信じて、1955年12月25日日曜日のクリスマスに、西南学院バプテスト教会でバプテストを受けました。卒業式の直後にライト・ハウス・バイブル・クラスのロイス・グラス先生から聖書をプレゼントされました。聖書には卒業の祝福のメッセージと箴言4：18のみ言葉が書かれていました。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」本当に暗かった私の人生は、イエス様の十字架の購いにより永遠の命を約束されています「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである」（ヨハネ 15：16）自分でイエス様を信じてクリスチャンになったと思っていましたが、神様が選んで下さったことを知りました。感謝で一杯です。

上京してから私は港区に住んでいました。1957年4月に品川区の大井バプテスト教会へ転入会しました。その教会は全年齢を対象とした教会学校でした。教会学校で同じクラスにいた藤城八重子姉と知り合い、結婚しました。彼女の姉もクリスチャンで、兄は横浜で牧師をしていることを知り心強くお思いました。

家内は自分の結婚式の直後に牧師夫人から言われたことがあります。それは毎日家庭礼拝を守ることでした。現在は毎朝決まった時間に、決まった場所で、家庭礼拝を守り続けています。神様は我が家に2軒の家を与えてくださいました。古い小さな家をリフォームしている時に、何のためにリフォームしているのかと神様から聞かれました。神様の御用のために使いますと答えました。その結果、昨年4月にホームチャペル茅ヶ崎開設10周年記念会を開催する運びになり私達が知らないうちに、町内の明細地図にホームチャペル茅ヶ崎が記載されていました。

ホームチャペル茅ヶ崎開設以来、小田先生のCDメッセージにより主の日の礼拝を守っています。これからも宜しく願います。